

聖霊女子短期大学

長期計画 2021年度（作成・開始）～2031年

中期計画2022年度（作成・開始）～2024年まで

建学の精神

「愛と人間の尊厳」

目的

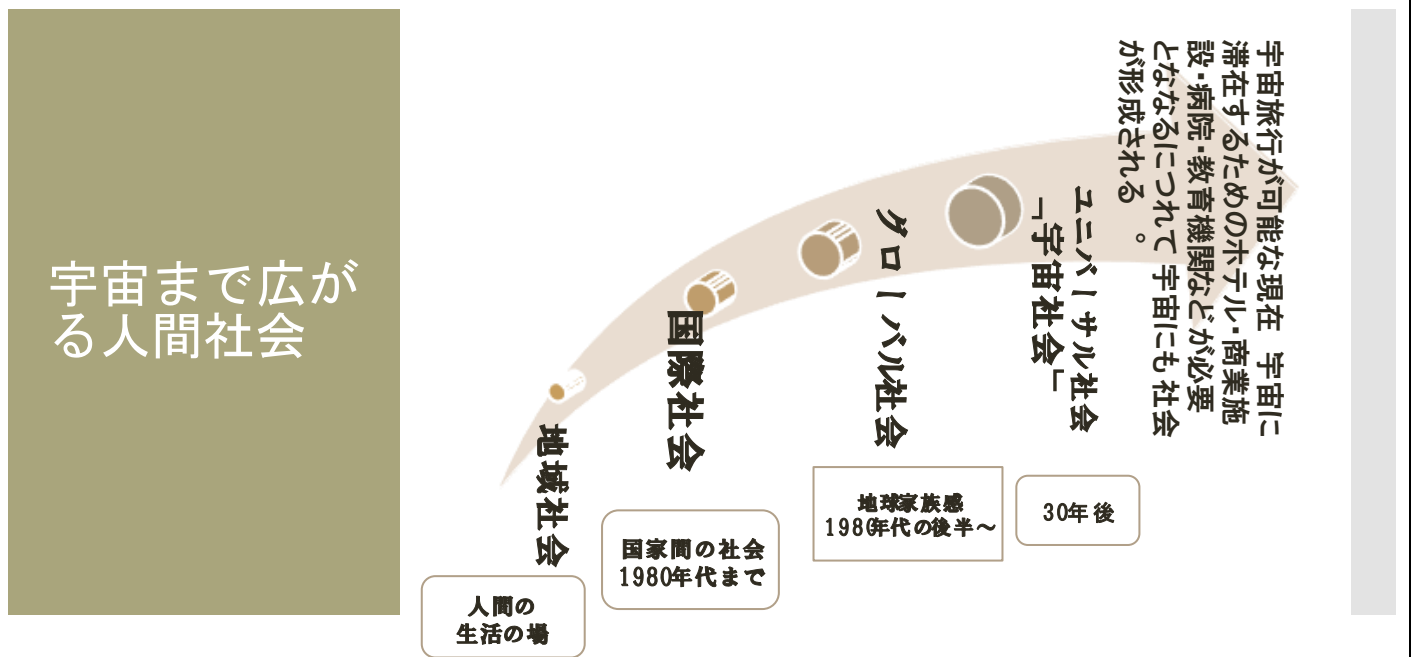
「個人力を地域の力に・地域の力を世界の力に」

背景

聖霊女子短期大学の母体となる学校法人聖霊学園は、1908 年(明治 41 年)に、ドイツから来日したシスター一方によって創設され、秋田県内の教育に貢献してきました。

本学は「愛と人間の尊厳を学ぶ」という教育目標を持ち、「お互いに寄り添い、また、どんな困難な時でも世界の人々と一緒に乗り越えるスキルと知識をもった人材を育成する」理念のもと、「地域に根差した国際性」を重視した教育・研究を行っています。県内の企業経営者の皆様から、本学の卒業生について「人間的に慕われ、国際舞台で活躍し、実務処理能力に秀れており、困難に直面してもくじけない」と高い評価をいただいています。

しかし、現在、大学を取り巻く環境は、デジタル化やグローバル化により今まで経験したことがないチャンスや可能性に満ち溢れています。デジタル化とグローバル化は、私達が存在する社会すなわち、フィジカル空間に加えて、デジタル空間(デジタル社会)とグローバル空間(グローバル社会)という新たな二つの空間を生み出しました。今、この三つの空間の融合が進むなかで、社会の様相は劇的に変わり、今までいろいろな分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが劇的に変化し、パラダイムがシフトし、人間は新時代に突入しました。1000 年に一回起きるか起こらないかのまれな世界の大パラダイムシフトにより人間の時間と空間の分離を超える意識が生まれ、活動範囲の可能性が広がりました。現在、アメリカや我が国日本中心の国際宇宙ステーションの建設と、2021 年の中国の宇宙ステーション建設の完成、一般人の宇宙旅行の可能性などにより、宇宙にも人間社会の構築は可能になってきています。



計り知れない可能性に満ち溢れた現在、世界中の多くの人は、リーダーシップをはじめとした社会情緒的スキルの不足、戦争などによる対立、過剰な競争に直面しています。その中で、バーンアウトや感情の両極化などにより、自分自身の可能性を実現できず、生きる力が衰え、人間の尊厳が脅かされつつあります。その原因の一つは、学力の3要素をはじめとした生きる力を育む学習環境が十分に整っていないことが考えられます。そのため、変化の激しい社会において、学生が困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力を育むことが課題となっています。

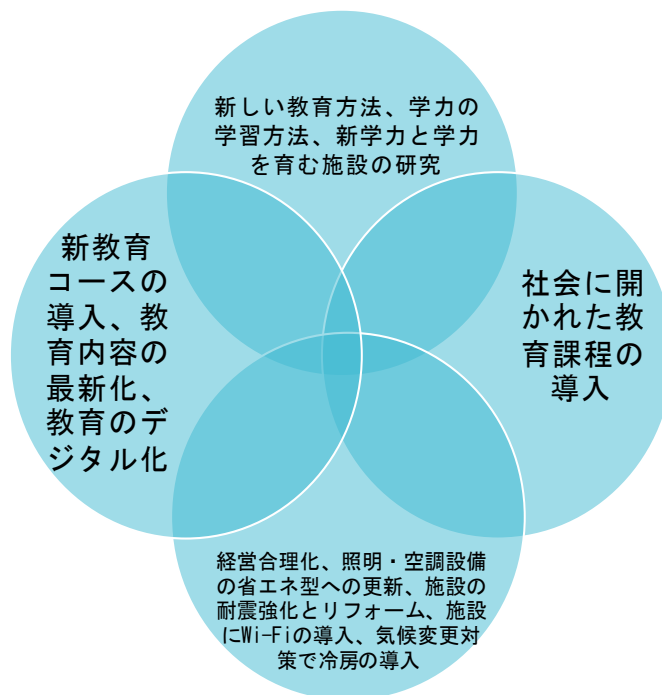
そして、思考や感情を共有し、仕切られていない可能性に満ち溢れた4種類の空間で活躍するために資格と知識や ICT スキル及び英語力だけではなく、グローバル教養、ロボット利活用力、DX 力、リーダーシップ(人を幸せにする力)や新しい学力は必要不可欠です。

本学では、以下のような長期計画を立て、それに基づき中期計画、年間計画を作成して、教育・研究を実施しています。

項目 1

本学の長期計画

短大の魅力
づくりへの
長期計画



長期計画では、「社会に開かれた教育課程」「新しい教育方法」「新しい学習方法と学習施設」「新しい学力の研究」を導入し、「学習意欲をかき立てる学習施設」で学ぶことで、学習意欲が向上し、学生が自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つことができます。これにより、変化の激しい社会において、学生たちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力を育みます。

項目 2

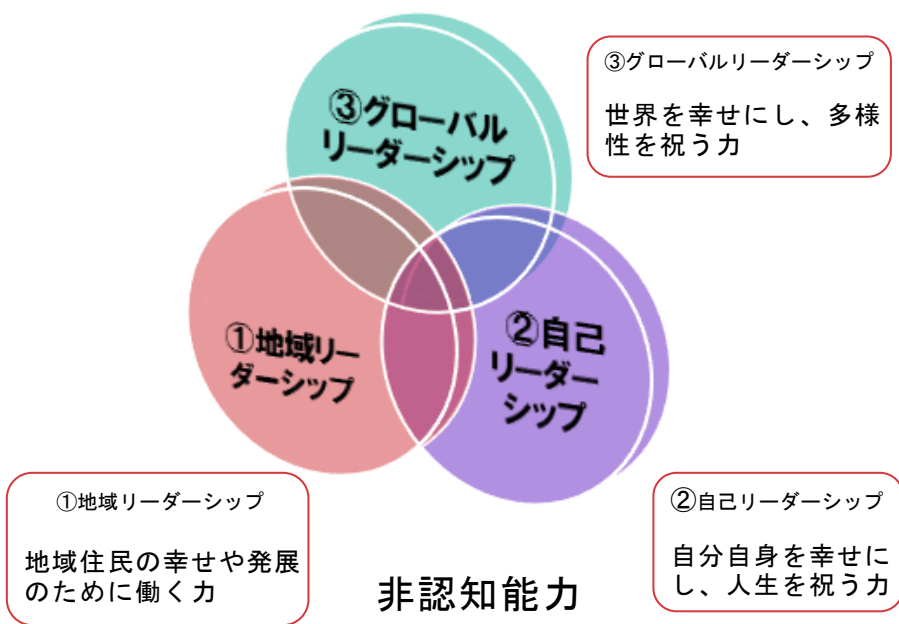
デジタル・グローバル・地域・宇宙社会で活躍するために必要なスキルの育成方法研究



本学は、現代社会が最も必要としているリーダーの教育を目指して「リーダーシップ」(誰かを幸せにする力)の研究を実施しています。人間には、生まれながら幸せになるために必要な自然美徳が備えられています。その自然美徳を活用して、文明や宗教が誕生する前から、自己リーダーシップ(自分自身を幸せにする力)により人類は幸せに暮らしてきました。有史(文字による記録のある)時代には、文明、文学、宗教、科学技術などが誕生し、人類はそれらを活用し自己リーダーシップを磨いてきました。しかし、現在人類を取り巻く世界は、パラダイムシフトにより三つの社会から構成されるようになりました。地域社会、グローバル社会、デジタル社会です。これら三つの社会で活躍するためには、自分の内なる自然美徳を活用し、リーダーシップを育むことが重要です。

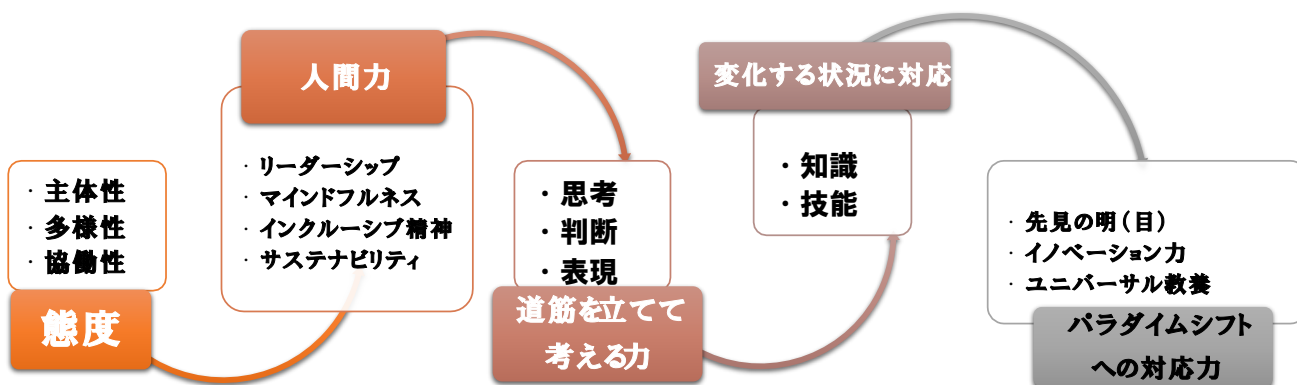
項目 3

リーダーシップとは誰かを幸せにする力



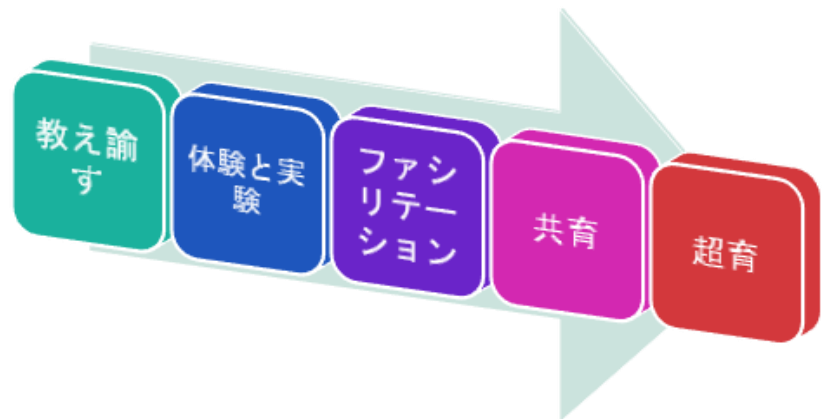
項目 4

本学が考える学力5要素と「共育・超育」の研究



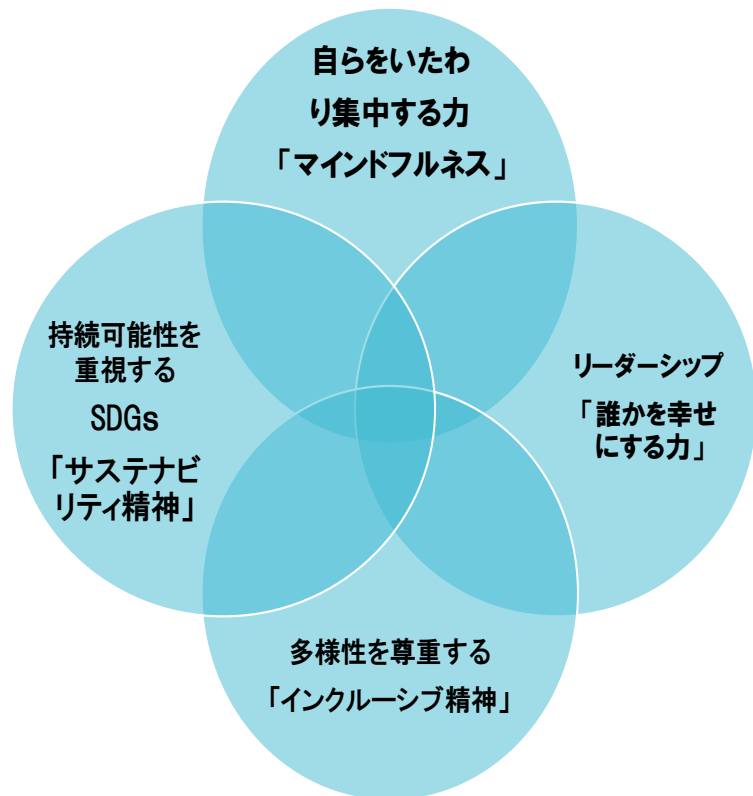
項目 5

教育方法研究
共育から超育へ



項目 6

新時代に「人間の尊厳」を大切にし「生きる力」を育むための新学力の研究



デジタル社会、グローバル社会、地域社会、宇宙社会に活躍するために様々なスキルと学力が必要です。今、この4つの社会の融合が進むなかで、人間の様相は劇的に変わりました。そして、文化や言葉の壁を越えて、想いや感情を共有し、仕切りのない広い社会で活躍することができます。そのためには資格と知識以外に①英会話力、②グローバル教養、③リーダーシップ(人を幸せにする力)などの能力が必要です。それに加えてデジタル社会で活躍するにはICT・IoT・DX力・イノベーション力が必要です。そして、少子高齢問題に対応するにはロボット活用力が必要です。これらの最先端の教育内容の研究・実施を通じて、本学を秋田県が世界に誇れる教育機関にしたいと考えています。

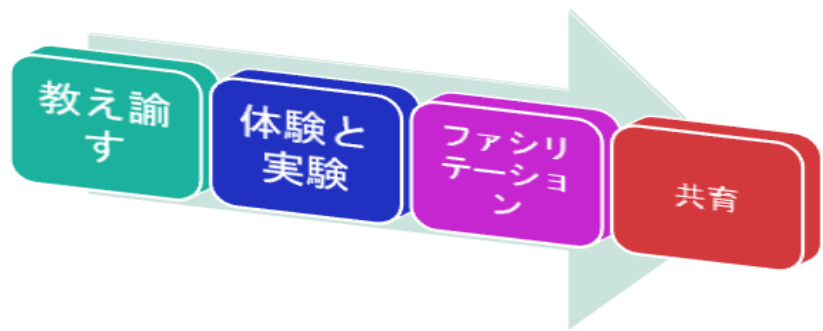
中期計画2022年度作成・開始～2024 度まで

本学では、三専攻で習得出来る資格に加えて新しくキャリアコースを新設し、地域社会とグローバル社会とデジタル社会の明るい未来を育む女性リーダーを育てるために、本学の豊かな①「Care」ケア②「Learning」学習③「Transfer」実習という教育方法に 2022 年度から④コーチング「Coaching」というステップを取り入れる予定です。コーチングの目的は①学生の行きたい方向に進むのを助ける。②自己意識を高める③可能性を解き放ち、学生の日常のパフォーマンスの最大化を図る。④ビジネスのグローバルなマネジメントスキルの育成です。そのために、これから、ロボットなどを導入し、学生自身や地域と世界を「幸せにする力」であるリーダーシップに必要な 165 の個人的資質を科学的に心に植えつける教育コーチングを行います。教育コーチング、授業の IoT 化及びロボットと ICT を取り入れた最先端の教育方法を通じて、本学を秋田県が世界に誇れる教育を取り入れた教育機関にしたいと考えております。学生が卒業後には、与えられた分野で中心的な役割を担い周囲を幸せに出来る人材やビジネスウーマンとして活躍し、社会から高い評価を受ける教育・研究と地域貢献に力を注ぐ高等教育機関にさらに進化することを目標にします。そして、3 年間で卒業生がこれまで以上に母校に誇りを持てるようなブランド力のある教育機関として発展させていきます。そのために、本学のスタッフ全員の力を結集し、聖霊女子短期大学をワンランク上の教育機関に押し上げる予定です。

項目 1

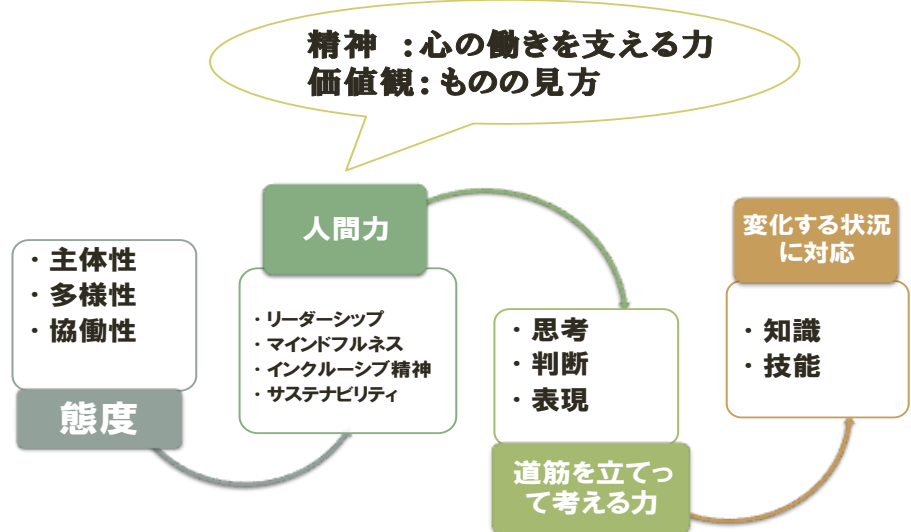
教育方法研究

教育ファシリテーションから共育へ



項目 2

学力3要素から
学力4要素の
教育方法研究



非認知能力リーダーシップ育成を目指した4ステップ教育方法研究

項目 3

Step 01
Care



ケア

Step 02
Learning



学習

Step 03
Transfer



実習

Step 04
Coaching



コーチング

項目 4

短大の魅力
づくりへの
中期計画

新しい教育方法、学力の学習方法、新学力と学力を育む施設の研究

社会に開かれた教育課程の導入

経営合理化、照明・空調設備の省エネ型への更新、施設の耐震強化とリフォーム、施設にWi-Fiの導入、気候変動対策で冷房の導入

新しい教育コースの導入、教育内容の最新化、教育のデジタル化

項目 5

本学の目指す教育環境



実験室



イノベーション力・英会話力・グローバル教養・ICT力が身に付くラウンジ(22年度新設)



実習室



図書館



キャリア意識と自己リーダーシップを磨くキャリア支援ロビーを学生玄関23年度新設



教室

I 研究計画

聖霊女子短期大学の新たな教育方法と教育価値創造のための学術の戦略的計画

A) ロボットプログラミング・ICT・IoT 分野における研究や活動計画

- ① Robot-Assisted Education (RAE) ロボット利活用教育
2022 年度にロボブロックを活用した初心者向けのロボット利活用教育用プログラムを作成・学生用ロボット利活用オリエンテーションプログラムを作成。
- ② Robot-Aided Life Style Learning (RALSL) ロボット活用生活様式学習
2022 年度にロボット活用生活様式学習用のプログラムを作成。
- ③ AI リテラシー教育導入に向けての準備
学生の AI リテラシー向上のために全専攻用の科目を準備。
- ④ ICT・IoT 教育の教室の準備
ICT を活用した保育実践の可能性を探求。

B) 教育研究

- ① グローバル教育研究
学術論文を出版。
- ② 人間発達研究
学術論文を出版。
- ③ 4ステップ教育方法研究
一年生の体験学習Ⅰ授業にコーチングを取り入れた総論講義を作成。
- ④ 教育コーチング研究
地域リーダーシップコーチング用「地域の世界を幸せにする力」の向上用「地域、芸術家、企業、大学、国連」学生がつなげる企画作成方法を作成。
- ⑤ リーダーシップ教育研究
自己コーチング方法を作成。
- ⑥ 国際教養教員育成教育研究
生活こども専攻の国際保育コースカリキュラムを作成。
- ⑦ 英語教育研究
学生の英会話力の向上を目指した新しいシラバスを作成。
- ⑧ バイリンガル教育研究

C) グローバル世界と地域文化研究

- ① ドイツ文化研究
- ② フィリピン文化研究
- ③ 南アジアビジネスと文化研究
- ④ アメリカ文化研究
- ⑤ SDGs 研究
- ⑥ インド文化研究

II. 教育分野での計画

未来を育むリーダー育成を目指して、①グローバル教養、②AI リテラシー、③リーダーシップ（幸せにする

力)「(i)グローバルリーダーシップ (ii)地域リーダーシップ (iii)自己リーダーシップ (iv)英会話教育の展開」

A) 3専攻共通の魅力づくり

- ① グローバル教育研究 「グローバル教養教科書作成(英語)」
- ② リーダーシップ教育研究 「リーダーシップコーチング教科書作成(英語)」
- ③ 4ステップ教育方法開始
- ④ ワンポイント・ラウンジ教育コーチング開始
- ⑤ ラウンジ・ワンポイント英会話教育開始
- ⑥ ラウンジ・ワンポイント Robot-Aided Life Style Learning(RALSL) ロボット活用生活様式学習
- ⑦ ラウンジ・ワンポイント Robot-Assisted Education (RAE) ロボット利活用教育
- ⑧ ICT システム専門の教員の雇用
- ⑨ 海外英語研修(準備開始)
- ⑩ AIリテラシー教育(2023年に申請)
- ⑪ DX力の育成

B) 生活文化専攻の魅力づくり

- ① プログラミングアジア演習開始準備
- ② アメリカインターンシップ開始準備
- ③ 地域インターンシップ開始準備
- ④ 韓国文化研究開始準備
- ⑤ リーダーシップコーチング教室の準備
- ⑥ ラウンジ・地域・グローバル文化体験
- ⑦ ラウンジ・グローバル・地域食文化体験
- ⑧ スーパー専門教育
グローバルキャリアコース・地域キャリアコース・デジタルカリコース開始
- ⑨ DX力の向上

C) 生活こども専攻の魅力づくり

- ① グローバル保育サポーター育成(聖霊短大資格)(準備)
- ② バイリンガル保育サポーター育成(聖霊短大資格)(準備)
- ③ あそびマイスター育成(聖霊短大資格)(準備)
- ④ ICT保育マイスター育成(聖霊短大資格)(準備)
- ⑤ ICT・IoT教育(準備)

D)健康栄養専攻魅力づくり

- ① バイリンガル人材育成(検討開始)
- ② グローバルな視点で健康栄養教育(検討開始)

Ⅲ. 教育のデジタル化と教育環境の分野での計画

- ① 教室の学生用Wi-Fi導入
- ② 学生情報掲示板導入(検討)
- ③ デジタル図書(検討開始)
- ④ 図書館に冷房の導入

Ⅳ. 学生募集

Webページ、動画、ポスターなどの作成・公開による聖霊短大の魅力発信

V. 社会連携

21世紀のグローバル社会における公共性の構築

- ① 学術成果の社会への還元（健康栄養の授業・英語会話の授業・グローバル教養の授業・リーダーシップコーチングの動画公開）など
- ② 学術成果を活用した連携や起業の促進
- ③ 教育機能の社会への展開
- ④ 聖霊短大の教育への企業や公共機関・地域の活動家・専門機関の参加の強化

VI. 運営

複合的な「場」の充実と活性化

- ① 機動的な運営体制の確立（管理と教職の融合）
- ② 小型学園運営体制と役職の合理化（役職の融合と必要ではない役職の廃止）
- ③ 基盤的な教育・研究経費の確保
- ④ 卒業生・支援者・姉妹大学や高校とのネットワークの充実
- ⑤ 教育研究を支える環境の整備
- ⑥ ペーパーレスキャンパス（資料などの電子化）
- ⑦ 省エネ対策
- ⑧ 建物の耐震強化

2022年度 年間計画

今年度は、愛と人間の尊厳を学び、世界・家族に愛され、期待されている女性の尊厳と使命を自覚し、新時代に自己の可能性を開花させながら、地球家族の一員として、健全なグローバル社会・デジタル社会・地域社会づくりに貢献できるリーダーシップ（幸せにする力）を持った人間を育成するために様々な教育活動を計画しました。そのために、学生一人ひとりを大切にしながら学生のコミュニケーションスキル、グローバル性、知識、スキル、キャリア及びリーダーシップ（幸せにする力）、ICT力、AIリテラシーの向上のために下記の内容に取り組みます。

I 研究計画		
内容		評価
A)ロボットプログラミング・ICT・IoT 分野における研究や活動計画		
① Robot-Assisted Education (RAE) ロボット利活用教育	○	(全学生に向けたオリエンテーションプログラムの導入)
② Robot-Aided Life Style Learning(RALSL) ロボット活用生活様式学習	○	(全学生に向けたオリエンテーションプログラムの導入)
③ AIリテラシー教育導入に向けての準備	○	AIリテラシー推進委員会の立ち上げ
④ ICT・IoT教育の教室の準備	×	見送り(国の補助金の先送り)
B)教育研究		
① グローバル教育研究	○	実施(「地域社会の地理的、宗教的、民族的アイデンティティの政治的認識による地域文化の保存によってもたらされる、グローバル社会の文化的多様性」学術論文を聖霊短大紀要に出版)
② 人間発達研究	○	実施(「小中学校における睡眠教育の現状と課題:養護教諭へのインタビュー調

		査による検討」学術論文を聖霊短大紀要に出版)
③ 4ステップ教育方法研究・教育コーチング研究	○	実施(自己リーダーシップ、地域リーダーシップ、グローバルリーダーシップの授業導入)
④ 英語教育研究	○	実施(学生の英会話力の向上を目指した新しいシラバスを作成)
⑤ リーダーシップ教育研究	○	実施(自己コーチング方法を作成)
⑥ 国際教養教員育成教育研究	○	実施(生活こども専攻の国際保育コース内容を作成)
⑦ バイリンガル教育研究	○	実施(英語と日本語で学ぶコースの導入)
C) グローバル世界と地域文化研究		
① ドイツ文化研究	×	未実施(新型コロナ感染拡大のため)
② フィリピン文化研究	×	未実施(新型コロナ感染拡大のため)
③ 南アジアビジネスと文化研究	○	実施(インドビジネス文化について研究し、2022年度に英語で授業を開講)
④ アメリカ文化研究	○	実施(教員を雇用)
⑤ SDGs 研究	○	実施(教員を雇用、秋田県内企業のSDGsの取り組みについて学生と教員が共同研究)
⑥ インド文化研究	×	未実施(新型コロナ感染拡大のため)
A) 3 専攻共通の魅力づくり		
① グローバル教育研究「グローバル教養教科書作成(英語):PDF」	○	テーマはグローバル世界と地域文化
② リーダーシップ教育研究「リーダーシップコーチング教科書作成(英語):PDF」 聖霊短大オリジナルの地域リーダーシップコーチングの15回	○	実施(英語でプログラムを作成し8人が受講)
③ 4ステップ教育方法開始 希望する学生が地域リーダーシップ、自己リーダーシップ、グローバルリーダーシップのコーチングを受講可能	○	実施(生活文化専攻・健康栄養専攻で開講)
④ ラウンジ・ワンポイント英会話教育開始	○	実施(30パターンの会話を実施)
⑤ ラウンジ・ワンポイント Robot-Aided Life Style Learning(RALSL) ロボット活用生活様式学習	○	実施(10パターンの会話を実施)
⑥ ラウンジ・ワンポイント Robot-Assisted Education (RAE) ロボット利活用教育	○	実施(オリエンテーション・コンペなどの実施)
⑦ ICT システム専門の教員の雇用と企業との連携	○	教員一人と企業との連携
⑧ 海外英語研修準備		実施(申請準備開始)
⑧ AI リテラシー教育準備	○	実施(委員会を開催して科目検討)
⑨ DX 力の育成	○	実施(体験学習 I 授業内での学生による動画作成)

B) 生活文化専攻の魅力づくり		
① プログラミングアジア演習開始準備	○	実施(協力大学との Zoom による打ち合わせ実施)
② アメリカインターンシップ開始準備	○	未実施(教員の退職により延期)
③ 地域インターンシップ開始準備		実施(地域企業・商工会議所との連携検討)
④ 韓国文化研究開始準備	×	未実施(教員の退職により延期)
⑤ リーダーシップコーチング教室の準備	×	未実施(予定教室の耐震不足が理由で補助金が獲得できず準備を中止)
⑥ ラウンジ・地域・グローバル文化体験開始	○	実施(アフリカの踊り、ネーパル舞踊、ヒップホップ、バリ舞踊を昼休みに開催)
⑦ ラウンジ・グローバル・地域食文化体験開始	○	実施(インド料理、アフリカ料理、地域の豆腐料理などのグローバルラウンジで販売。学生が書く料理を堪能)
⑧ スーパー専門教育(女性リーダー育成コース)	○	実施(グローバルキャリアコース・地域キャリアコース・デジタルキャリアコース開始、グローバルキャリアコースと地域キャリアコースで8人が受講中、デジタルコースは教員の退職により開講を中止)
⑨ DX 力の向上	○	実施(IT・デザインコースの検討)
C) 生活こども専攻の魅力づくり		
① グローバル保育サポーター育成(聖霊短大資格)(準備)	○	実施(国際保育コースの新設準備、新規科目検討、教員雇用などの準備)
② バイリンガル保育サポーター育成(聖霊短大資格)(準備)	○	実施(国際保育コースの新設準備、新規科目検討、教員雇用などの準備)
③ あそびマイスター育成(聖霊短大資格)(準備)	○	実施(総合保育コースの新設準備、新規科目検討などの準備)
④ ICT 保育マイスター育成(聖霊短大資格)(準備)	○	実施(総合保育コースの新設準備、新規科目検討などの準備)
⑤ ICT・IoT 教育(準備)	○	実施(付属園と連携し、ICT を活用した保育実践の可能性を探求)
D)健康栄養専攻魅力づくり		
① バイリンガル人材育成(検討開始)	○	実施(ワンポイント英会話・ロボット利活用英会話により学生の英語力向上を図った)
② グローバルな視点で健康栄養教育(検討開始)	○	実施(グローバルラウンジのグローバル食文化体験、グローバル世界と地域文化の授業(専攻横断)への参加)
Ⅲ. 教育のデジタル化と教育環境の分野での計画		
① 教室の学生用 WiFi 導入	○	実施(グローバルラウンジへの導入を実施、その他のスペースへの導入は、国が

		らの補助金延期に伴い延期)
② 学生情報掲示板導入(検討)	○	実施(学生用玄関への情報掲示板設置)
③ デジタル図書(検討開始)	○	実施(他大学の動向に関する情報収集実施)
④ 図書館に冷房の導入		実施(国からの補助金延期に伴い延期)
IV. 学生募集 Web ページ、動画、ポスターなどの作成・公開による 聖霊短大の魅力発信	○	実施(短大の新魅力の公開によりイメージ改善に繋がりました。)
V. 社会連携 21 世紀のグローバル社会における公共性の構築		
① 学術成果の社会への還元	○	実施(健康栄養専攻の授業(地元の文化交流イベント・グローバル食文化体験)・英会話の授業・グローバル教養の授業など)
② 学術成果を活用した連携や起業の促進	○	実施(健康栄養専攻による社員食堂などへの健康メニュー考案・提供、オリジナルお菓子作成など)
③ 教育機能の社会への展開の準備	○	実施(本学における子育て支援イベントの準備)
④ 聖霊短大の教育への企業や公共機関・地域の活動家・専門機関の参加の強化	○	実施(企業、公共機関、国際機関の教育参加、UNHCR の難民支援など)
⑤ 社会に開かれた教育課程の導入	○	企業や施設との連携で学生が短大の授業から学んだビジネス、経済、リーダーシップの『理論』などを現場体験によって『確認』出来るインターンシップの強化
VI. 運営 複合的な「場」の充実と活性化		
① 機動的な運営体制の確立(管理と教職の融合)	○	実施(進路支援部長を教員が担当、その他の役職の融合検討)
② 小型学園運営体制と役職の合理化(役職の融合と必要ではい役職の廃止)	○	実施(副学長の廃止)
③ 基盤的な教育・研究経費の確保	○	実施(科研費の取得方法・研究倫理に関する学内研修の実施)
④ 卒業生・支援者・姉妹大学や高校とのネットワークの充実	○	実施(秋田県内の高校訪問、オンラインを用いたインド・アメリカとの連携構築検討、姉妹大学とのネットワークの構築強化)
⑤ 教育研究を支える環境の整備	○	実施(専門性の高い2名(インクルーシブ精神、SDGs)の教員の雇用、グローバルラウンジの導入)、自己コーチングスペ

		一スの検討)
⑥ ペーパーレスキャンパス(資料などの電子化)	○	実施(2023年度からの導入に向けた検討)
⑦ 省エネ対策	○	実施(LED 電球の部分的導入(グローバルラウンジ)、節電などによる省力化の実施)
⑧ 建物の耐震強化検討	○	実施(建物内の耐震工事が必要な場所の検討)
⑨ 温暖化対策のための冷房導入検討	○	実施(図書館、大教室への冷房導入の検討)

2022年度の総合評価と課題

<教育>

ロボット利活用、英会話、ICT 教育などの新しい取り組みを開始しました。課題として、学生の学習意欲の向上が十分に認められなかったことがあげられます。今後、学生の学習意欲を高めるためのさらなる取り組みが必要です。

<経営>

コロナ禍でしたが、教職員・学生の協力により、財務状況は改善しました。次年度は、経常利益の増加が課題です。

2023年度 年間計画

中期計画に基づいて、今年度は愛と人間の尊厳を学び、世界・家族に愛され、期待されている女性の尊厳と使命を自覚し、新時代に自己の可能性を開花させながら、地球家族の一員として、健全なグローバル社会・デジタル社会・地域社会づくりに貢献できるリーダーシップ(幸せにする力)を持った人間を育成するために様々な教育活動を強化する予定です。学生一人ひとりを大切にしながら学生のコミュニケーションスキル、グローバル性、知識、スキル、キャリア及びリーダーシップ(幸せにする力)、ICT力、AIリテラシー、イノベーション力の更なる向上のために下記の内容に取り組みます。そして、学生のDX力の向上に向けて専門の教員の雇用なども予定しています。

I 研究計画	
内容	評価
A)ロボットプログラミング・ICT・IoT 分野における研究や活動計画	
① Robot-Assisted Education (RAE) ロボット利活用教育	
② Robot-Aided Life Style Learning(RALSL)ロボット活用生活様式学習	
③ AIリテラシー教育導入に向けての準備	
④ ICT・IoT 教育の教室の準備	
B)教育研究	
① グローバル教育研究	
② 人間発達研究	
③ 4ステップ教育方法研究・教育コーチング研究	
④ 英語教育研究	
⑤ リーダーシップ教育研究	

⑥ 国際教養教員育成教育研究	
⑦ バイリンガル教育研究	
C) グローバル世界と地域文化研究	
① ドイツ文化研究	
② フィリピン文化研究	
③ 南アジアビジネスと文化研究	
④ アメリカ文化研究	
⑤ SDGs 研究	
⑥ インド文化研究	
A) 3 専攻共通の魅力づくり	
① グローバル教育研究 「グローバル教養教科書作成(英語): PDF」	
② リーダーシップ教育研究 「リーダーシップコーチング教科書作成(英語): PDF」 聖霊短大オリジナルの地域リーダーシップコーチングの 15 回	
③ 4ステップ教育方法開始 希望する学生が地域リーダーシップ、自己リーダーシップ、グローバルリーダーシップのコーチングを受講可能	
④ ラウンジ・ワンポイント英会話教育開始	
⑤ ラウンジ・ワンポイント Robot-Aided Life Style Learning(RALSL) ロボット活用生活様式学習	
⑥ ラウンジ・ワンポイント Robot-Assisted Education (RAE) ロボット利活用教育	
⑦ 海外英語研修準備	
⑧ AI リテラシー教育準備	
B) 生活文化専攻の魅力づくり	
① プログラムミングアジア演習開始準備	
② アメリカインターンシップ開始準備	
③ 地域インターンシップ開始準備	
④ 韓国文化研究開始準備	
⑤ リーダーシップコーチング教室の準備	
⑥ ラウンジ・地域・グローバル文化体験開始	
⑦ ラウンジ・グローバル食文化体験開始	
⑧ スーパー専門教育(女性リーダー育成コース)	
⑨ DX 力の向上	
C) 生活こども専攻の魅力づくり	
① 国際保育サポーター育成(聖霊短大資格)(準備)	
② バイリンガル保育サポーター育成(準備)	
③ 遊びマイスター育成(聖霊短大資格)(準備)	

④ ICT 保育マイスター育成(聖霊短大資格)(準備)	
⑤ ICT・IoT 教育(準備)	
⑥ マインドフルネス・インクルーシブ精神・SDGsを踏まえた教育の開発	
⑦ 海外の幼児教育施設との交流	
D)健康栄養専攻魅力づくり	
① バイリンガル人材育成(検討開始)	
② グローバルな視点で健康栄養教育(検討開始)	
Ⅲ. 教育のデジタル化と教育環境の分野での計画	
① 教室の学生用 WIFI 導入	
② 学生情報掲示板導入(検討)	
③ デジタル図書(検討開始)	
④ 図書館に冷房の導入	
V. 社会連携 21 世紀のグローバル社会における公共性の構築	
① 学術成果の社会への還元	
② 学術成果を活用した連携や起業の促進	
③ 教育機能の社会への展開の準備	
④ 聖霊短大の教育への企業や公共機関・地域の活動家・専門機関の参加の強化	
VI. 運営 複合的な「場」の充実と活性化	
① 機動的な運営体制の確立(管理と教職の融合)	
② 小型学園運営体制と役職の合理化(役職の融合と必要ではない役職の廃止)	
③ 基盤的な教育・研究経費の確保	
④ 卒業生・支援者・姉妹大学や高校とのネットワークの充実	
⑤ 教育研究を支える環境の整備	
⑥ ペーパーレスキャンパス(資料などの電子化)	
⑦ 省エネ対策	
⑧ 建物の耐震強化検討(図書館、マリア館)	
⑨ 温暖化対策のための冷房導入(ヤンセンホール冷房故障)	